

久宝寺橋 きゅうほうじはし ● Kyuhoji-bashi  
(東横堀川)

久宝寺橋は、豊臣秀吉の時代から架かっていたと言われる古い橋の一つだが、架けられていた位置は定かではない。橋名の由来は、橋の西側に久宝寺という寺があったからとか、道頓堀川の開削時に河内の久宝寺村から多くの人たちが来て、この地に移り住んだからともいわれている。橋の通りは、明暦3(1657)年の地図によれば、大和街道の一つとされ、当時から重要な道筋だった。

江戸時代には、橋の東側では竹木の取引が行われ、西側は船場の中心部や新町、道頓堀の遊所に近いことから、文具、合羽、白粉等を扱う小間物商人やその関連職人、大工職人などが多く所在する賑やかな町だった。しかし以前は重要だった街道筋も、都市計画道路の整備からは取り残されていた。



現在の橋は、昭和14(1939)年、永久橋化され三径間ゲルバー式鉄筋コンクリート桁を採用した橋となり、平成9(1997)年には橋が美装化され装いも新たになった。スッキリとした照明灯が目を引くこの橋の途中からは、真上を走る阪神高速1号線の長堀入口にもつながっている。